

# 直方ミニバスケットボールクラブだより

## チームになる



先日子どもたちには伝えましたが、年明けの大会として出場を期待していた「とびうめ杯」が、残念ながら、新型コロナウイルス感染拡大が終息していないことから、中止の決定がなされました。残る2月終わりから3月はじめにかけて毎年開催される「綾杉杯」は、まだ検討中のようです。

今年度の6年生の子どもたちにとっては、大会を一度も経験することができないままの卒部ということも考えられます。コロナ禍の状況で、誰にもどうすることもできないことではありますが、少しでも、小さくても、自分たちの力を試すことのできる機会をつくってやりたいと思っています。ただ、今以上に感染が拡大し状況が悪化すれば、それさえもかなわなくなるでしょうし、活動そのものが危ぶまれます。そうならないことを願って、子どもたちの練習の成果を確かめることのできる機会を模索したいと思います。

子どもたちは、具体的な目標を描くことが難しいなか、それでも、日々本当によくがんばっています。例年同様、軌道にのるまでに少し時間を要しましたが、比較的早い時期からキャプテンを中心に活動が回り始めました。

しかし、順風満帆に走り続けているわけではありません。社会的にはコロナ禍における自粛生活の空気が、子どもたちの心身にも少なからず影響を及ぼしているという見解を示す医療関係者もいます。

子どもたちの生活は、クラブだけでなく、学校、家庭、地域、あらゆる場面で営まれています。各所においてもいろいろな活動があり、状況があり、心身のバランスを崩して体調不良になったり、事故やけがで活動を制限せざるを得なくなったり、自らの失敗やつまずきで思うように活動することができなかつたり...、さまざまなことがあります。しかし、その子なりにクリアする方法を見つけたり選んだりしながら、改善に向けて少しずつ前に進んでいます。その過程で、その子にとって必要な力を身につけていっています。子ども（たち）にはおとなとは違う力があります。おとなにはない力があります。子ども（たち）の成長に側面的にかかわる私（たち）の役割は、その子ども（たち）の力がうまく発揮できるようサポートしてやることです。

一時的に苦しい時期があっても、子ども（たち）の成長を信じてかかわるおとな（指導者や教師等）と、見守り、励まし、応援してくれる家庭（ホーム）があれば、子ども（たち）は必ず乗り越えていくことができます。うれしいことも、つらいことも、いくつもの多様な経験を重ねることで、一つ一つをクリアする術（すべ）を身につけ、少しずつ自力をつけ、必ず自立に向かいます。私たちおとなの役割は、そうやって成長することのできる環境を整えてやることです。